

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2019.9
第91号

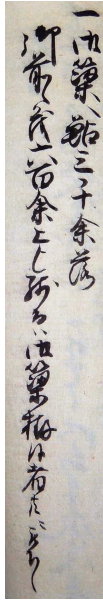
企画展(前期)「海と川と湖と」を
当館二階特別展示室で開催中です。期
間は、九月二十三日(月)までです。
入場無料です。ぜひお越しください。

自然豊かな秋田の鮎あゆ漁

「北家御日記」より

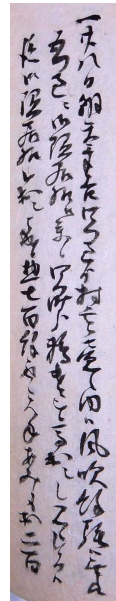
秋田の人々は、昔から豊かな自然の恵みを享
受してきました。当館所蔵の古文書には江戸時
代の秋田の海や川、湖などに関する記事が随所
に見られます。例えば、県指定文化財の「北家
御日記」(全七百六十五冊)には、北家の人々
や家臣らが様々な方法で鮎あゆなどの川魚を獲って
いた話が出てきます。また、漁獲数も、一日で
数百匹から数千匹に達する時もありました。

今回は、当館企画展(前期)「海と川と湖と」
の展示史料の中から、その一部をご紹介します。

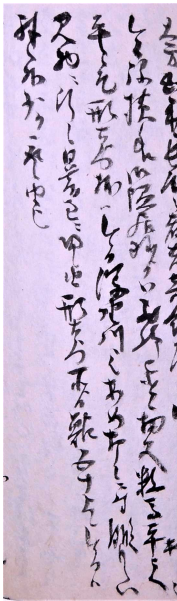


右の史料は、「北家御日記 一二八」(AK二
一二一一―一二八)の正徳二年(一七一一)八
月十六日の記事の一節です。ここには、「御築
へ鮎三千余落 御前へも六百余上申候、残而ハ
御築拵候者共ニ被下候」と書かれており、鮎が
三千匹余り獲れたということに驚かされます。
当時の豊富な資源量を物語る話と言えます。な
お、「築」とは、川の瀬に杭を打ち並べて水を
せき止め、一箇所だけ開けて簀すいを張り、川を泳
ぐ魚をそこで受けて獲る仕掛けです。

こうした川魚の捕獲には、他にも様々な漁法
が用いられました。次の史料をご覧ください。

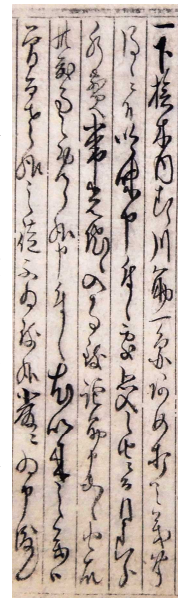


これは、「北家御日記 五三二」(AK二一一
一―五三二)の元禄八年(一六九五)七月二十八
日の記事の一節です。「朝天気吉四ツ過より村
雲昼之内ハ風吹余強ハ無之候、五ツ過ニ御隠居
様江参候、四ツ時分鵜遣候を馬出シ候見候、今
日ハ從御隠居様御出シ被成候、惣七百余取候」
と、鵜うを使って魚を捕獲する「鵜飼うかい」に関する
内容で、七百匹余り獲れたとあります。とてつ
もない数ですが、多くの魚が獲れたことは事実
でしょう。また、この記事の後半には、別の漁
法も出てきます。左の史料をご覧ください。



「・・・数馬平兵衛平之允形右衛門 杯ハ今日
潟野川ニてあめ打候ニ付暇もらい見物ニ行候、
日暮過ニ帰候由形右衛門所より鮎五十上候、今
日ハ殊之外少ク取候由也」と書かれています。
「あめ打」とは「なめ打」のことで、これも漁
法の一つです。山椒の皮を粉にしたものを川に
流した後、その毒にやられて動けなくなり水面

に浮き上がってきた魚を獲る方法です。しかし、
これを行うと川が汚れてしまうため、漁業に加
え、農作業にも悪影響が及ぶことがありました。
そのため、北家では農民や家臣らに対して禁止
していました。



右の史料は、「北家御日記 六六五」(AK二
一二一一―六六五)の文政十二年(一八二九)
八月二十四日の記事の一節です。「下桧木内む
ら川筋一円あめ打候義聞得候ニ付吟味申付候
処、恐入候由ニ而同むら肝煎常光院へ入寺致詫
筋申出候」とあります。下桧木内村で隠れてな
め打を行う者が見つかったため、責任を感じた
同村の肝煎(村役人)が北家の菩提寺の常光院に
入り、謹慎することを申し出たという内容です。
隠れてでも行いたいほど、なめ打が魅力的な漁
法だったことを物語っています。

今回紹介した史料は、すべて、その原本を企
画展(前期)「海と川と湖と」で展示していま
す。また、鮎あゆだけでなく、鮭さけや鱒ます、クニマス
に関する史料の原本や複製も展示しています。
北家に一度に二百匹もの大量の鮎が贈答された
ことや、寛文十年(一六七〇)に約三千匹の鮭
が土崎と能代から上納されたことを示すものな
ど、内容は多岐にわたります。この企画展では、
漁業や舟運など様々な観点から選んだ史料を展
示しています。入場無料ですので、お気軽にお
越しください。

【村山純一】

令和元年度企画展(前期)
「海と川と湖と」の案内

九月七日と八日の二日間、いよいよ「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が県立武道館などを会場に開催されます。大会期間中は「秋田の豊かな海の恵みに出会う2日間」と題し、道の駅あきた港で「豊かな海づくりフェスタinあきた」が同時開催されるほか、男鹿市やにかほ市など県内四つのサテライト会場で、海にまつわるさまざまなイベントが計画されています。海に親しみ、地魚を味わいながら、秋田の豊かな海の恵みを体験できる楽しい時間となりそうです。

当館では、この大会を応援しようと、昨年は「秋田と海」をテーマに企画展を行いました。今年はそのさらに発展させ、「海と川と湖と」をテーマに開催しています。海はもちろんのこと、川や湖からも豊かな恵みを授かってきた先人たちの歩みを、当館所蔵資料を通してただっていたらければと思います。展示は次の八つのコーナーに分かれます。

- 一、秋田の海
- 二、秋田の川
- 三、海運と港湾整備
- 四、河川舟運の繁栄
- 五、秋田の漁業の近代化
- 六、十和田湖の養殖漁業
- 七、田沢湖のクニマス
- 八、干拓前の八郎潟

① ② ③
ここでは、展示中の資料の一つを紹介いたします。左の絵図①〜③をご覧ください。



これは、一見すると三枚の別々の絵図に見えますが、実は「男鹿半嶋図」(地七)という、長さが5m近くに及ぶ一枚の絵図です。右から左に①↓②↓③と描かれています。ここに載せる

には三枚に分けないと見にくくなってしまいうため三分割しましたが、今回の企画展では、「秋田の海」のコーナーで原本を展示します。その長さゆえ、普段は来館者の方に原本を見ていただくことができない資料の一つですので、非常に貴重な機会となります。ぜひ、直接皆さまの目で見ていただき、男鹿半島の雄大さを感じ取っていただければと思います。

なお、左の「公文書館よりお知らせ」にもあり、企画展「海と川と湖と」をみる(金)には、「企画展『海と川と湖と』をみる」をテーマに歴史講座を開催しますので、こちらにもふるってご参加ください。【桜庭・村山】

令和元年度 企画展(前期)
海と川と湖と

●とき 令和元年8月29日(木) ~9月23日(月)
午前10時~午後5時

●ところ 2階 特別展示室 (県立図書館と併設)

秋田県公文書館

〒010-0952 秋田市山王新町14-31
電話 018-866-8301
E-mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp
URL https://www.pref.akita.lg.jp/koubunsho/

公文書館よりお知らせ

●企画展(前期)「海と川と湖と」

八月二十九日(木)〜九月二十三日(月)

●歴史講座(第一回)

テーマ「企画展『海と川と湖と』をみる

九月二十日(金)午後一時三十分〜午後三時